

岡本の国会での答弁

177-参-外交防衛委員会-9号 平成23年05月19日

○榛葉賀津也君 ありがとうございます。

やはり消費者に安心、安全を与えるためには、私は基本的には口に摂取する形状で測るのが最もフェアだろうと思っております。お茶の新茶のてんぷらもなかなかおいしいわけございまして、葉っぱでも下回っている、これも大事なこともかもしれません。先ほどおっしゃったように凝縮しますから、静岡のお茶が、荒茶でやった場合、飲んでも食べても安全にもかかわらず、荒茶でやることによってほとんどアウトになる可能性があります。

岡本厚生労働大臣政務官はお医者様でもございますし、お茶の効能はよく御存じだと思います。愛知のお茶も静岡のお茶同様おいしいわけでございますけれども、なぜ荒茶が生葉同様五百という数字を使うのか、若しくは五百、二百の基準は何なのか、そしてお茶はどのような形でこの健康を証明する検査、数値を設置するのが適当であるのか、是非厚生労働省はこのところを科学的にきちっと説明をしていただきたいということをお願いをしたいと思います。

○大臣政務官(岡本充功君) 今御指摘がありましたお茶につきまして、福山副長官からも御答弁がありましたように、政府内での今調整をしているところでありますが、まず、委員からお配りいただきました資料の一の中で、お茶につきましては、野菜ではなくてその他の食品のカテゴリーに分類をされるということ原子力安全委員会に既に確認をしておるところでありまして、このその他の食品の中でお茶をどう位置付けるかということです。

今お話がありましたように、生葉でてんぷらにされる方も見えますし、お菓子に利用される方もいる。いろんな用途が本当にお茶にはあるということでありまして、煎茶以外にも粉茶というような方法もあるし抹茶もあるしというような話で、最終的にどのような形で口に入るかということまでをなかなか行政側で把握するというのが難しいというのも一方の側面であります。茶筒に入っているお茶葉が、もし生茶で五百ということであると、結果として数千ベクレルという高い数値の茶筒に入ったお茶葉が出回るということが消費者にどういう印象を与えるかということも一方で懸念はしています。

我々といたしまして、こういった様々な観点を含めてどうしていくかということは決めなければいけないというふうに考えております。